

新潟焼山における活動報告

○活動の概要	
火山防災エキスパート等	杉本 伸一（火山防災エキスパート、 雲仙岳災害記念館 館長）
支援対象	新潟県
派遣日	令和3年11月2日（火）
場所	オンライン会議
取組名	令和3年度新潟焼山火山防災協議会 コアグループ会議
取組参加者	コアグループ会議メンバー
取組の目的	コアグループ会議に参加し、訓練想定や振り返りのポイントなどについて、噴火時等の対応経験を基にした助言を行うなどの訓練の企画支援を目的とした。

【活動概要】

- 協議会では、平成26年2月に「新潟焼山の噴火活動が活発化した場合の避難計画」を策定し、同年に火山防災訓練を実施するなど、火山防災対策を推進してきた。また、平成26年9月の御嶽山噴火災害を受け、令和3年3月に避難計画の改定を行っている。
- 一方、平成28年以降、協議会としての火山防災訓練は実施されておらず、避難計画の確認・習熟の方法に課題が残っている。
- 杉本委員には、7月9日の火山防災協議会の第1回コアグループ会議に参加いただき、雲仙岳噴火経験に基づく訓練の重要性やポイントについて講話いただいたほか、コアグループ会議出席者と意見交換を実施していただいている（2時間程度）。
- また、上記のコアグループ会議の結果を基に修正した訓練企画素案について、新潟県及び新潟地方気象台との打合せを実施し、雲仙岳噴火や御嶽山噴火での対応経験を基にした訓練想定等に関する助言を行った。
- さらに、10月8日には第2回コアグループ会議に参加し、これまでの派遣における助言等を基に検討された訓練素案に関する意見交換を行った。
- 本派遣では、第3回コアグループ会議に参加し、過去の噴火事例に基づいた助言を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。

【コアグループ会議における意見交換】

1. 議題(1) 状況付与の概要について

- 専門家A：訓練に使用する情報は事前に配布するとの説明だったが、火山活動解説資料等の火山活動に関する情報も、事前に配布するのか。
 - ▶ 新潟県：訓練での情報付与は、訓練当日、時系列に沿って行う。それと併せて、訓

練に関する情報一式を、事前に共有する。

2. 議題(2) 協議会構成機関による緊急時の連携体制等について

- 専門家A：資料2では、サンプル採取に「気象庁（主に火山監視・警報センター、新潟地方気象台）」と記載されているが、新潟地方気象台よりも長野地方気象台の方が新潟焼山に近い。その点を、気象台としてどのように考えているのか。
 - ▶ 新潟地方気象台：それぞれの地方気象台で、自治体支援等の業務を行っている。その時の情報を踏まえながら、対応できるところで対応していきたいと考えている。
 - ▶ 幹事長：管轄があるので、それに沿うのだと思うが、場合によっては長野地方気象台の協力を得るということ。
 - ▶ 専門家A：火山監視・警報センターはどのように考えているのか。
 - ▶ 気象庁地震火山部火山課：その時点での風向も考慮しないといけない。気象庁本庁をはじめ、関係する地方気象台が連携して対応することになる。
 - ▶ 専門家A：降灰に県境は関係ないので、状況に応じて対応していただきたい。
 - ▶ 新潟県：資料には「新潟地方気象台」と記載しているが、「新潟地方気象台・長野地方気象台」と修正して、状況に応じて対応したいと思うが、いかがか。
 - ▶ 新潟地方気象台：そのように想定しており、新潟地方気象台としては問題ない。
 - ▶ 長野地方気象台：連携については問題ないと思う。可能な範囲で対応したい。
- 専門家B：サンプル採取に学芸員を追加していただければ、サンプルの移送がスムーズになると思う。
 - ▶ 新潟県：ぜひそうしたい。1点確認だが、降灰があった場合、新潟県からの連絡がなくても動いていただくということで良いか。
 - ▶ 専門家B：サンプル採取を担当する他の先生方と連絡をとりながら進めていく。
 - ▶ 新潟県：必要に応じて、事務局も入りながら進めていきたい。
 - ▶ 専門家C：現場に近い専門家がいることは重要なので、ぜひそのように対応していただきたい。また、実際の噴火時にはサンプル数は多い方が良い。そのため、学識者かどうかに関わらず、採取地点と採取時刻を知らせていただければ、現場に近い地元の人に採取してもらうのも良いのではないか。新潟市からは距離が離れているので、到着までに時間がかかってしまう。現場に近いところで採取し、採取地点・時刻が明らかなのは重要な資料になるので、ぜひ検討していただきたい。
 - ▶ 新潟県：実際の噴火時には、現地に近い機関等にもお願いしたい。訓練の範疇を超えるが、今後の体制を検討していきたい。
- 専門家D：へりの状況や天候等を考慮し、協議会とも検討したうえで、最も効果的な動きをしたい。C先生の話にも通じるが、早川谷に知人がいるので、そのような方を通じた早い対応がとれる可能性もある。サンプリングの回収手順に、地元の方の協力を盛り込めると良いと感じた。
 - ▶ 新潟県：地元の関係者で可能な方には、ぜひご協力いただきたい。
- 自治体A：連絡調整会議は、情報共有のために良いと思う。緊急時に担当者が集まれるかという懸念はあるが、まずは訓練で実施してみたい。併せて、規制の対応も訓練で実

施したい。

- ▶ 新潟県：担当者が集まれるかどうかは、事務局でも懸念していた。個別に連絡・調整が必要なこともあると思うので、個別が良いのか、集まるのが良いのかは決めかねている。訓練で実施してみて、検討したい。
 - ▶ 自治体B：現在検討しているシナリオでまずは実施してみて、気づいた点や課題点等を改善していけば良いのではないかと。
 - ▶ 自治体C：実際に試してみて、課題等がわかれば次に活かせるので、まずはこのシナリオで実施してみれば良いと思う。
 - ▶ 自治体D：連絡調整会議を開催して、状況を共有することは重要だと思う。安否不明者・登山者の状況や被害状況等、いかに全体像を共有するかが重要である。2014年の御嶽山噴火の際は、岐阜県と長野県がそれぞれ別に動いており、御岳山全体としての動きはなかった。全体像の把握は役に立つと思うので、連絡調整会議を最初で開催するのは良いことだと思う。
- 新潟県：長野県との情報共有、市町村同士の連携が重要であるという助言は、火山防災エキスパートの杉本先生からもいただいている。連絡調整会議は噴火直後に開催するので、十分な情報が集まっていない可能性はあるが、足並みを揃えて対応するためには重要であると考えている。どのような情報を共有するかは、今後さらに検討したい。
 - 杉本委員：とてもよくまとまっている。火山灰のサンプリングについては、霧島山の硫黄山が噴火した際、登山ガイドがサンプリングを実施した。その登山ガイドは、事前に東京大学から研修を受けていた。サンプリングに協力していただく方には、留意点等を事前に伝えておくことが必要と感じる。
- また、連絡調整会議の開催は新潟焼山では初めての試みなので、訓練で実施してみて、明らかになった課題等を改善していくと良い。事前にこれだけ準備をしている防災訓練は、ほとんど経験がない。
- ▶ 新潟県：訓練で上手くいかなかった点を含めて、訓練後も検討を続けたい。

3. 議題(3) 訓練実施計画及びシナリオについて

- 専門家A：今回の訓練は、フェーズ①～③までを報道公開する。的確な受け答えをしていただきたい。

<派遣の様子>

